

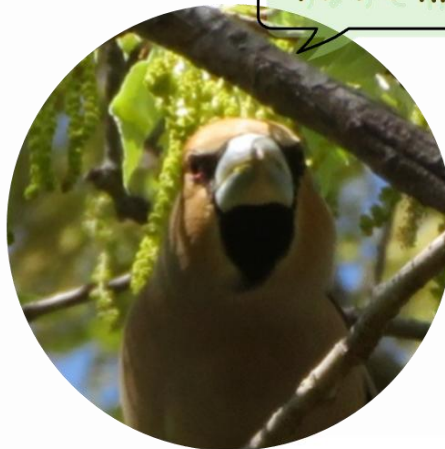
太いくちばしが自慢の鳥シメ

シメは、スズメ目アトリ科の鳥で、体長はスズメより一回り大きく、**とても太くて立派なくちばし**が特徴です。このくちばしは木の実や種を割るのに適していて、とても硬い種でも、**強力なくちばし**で「バキッ」と割って食べるのが得意です。地面に落ちている種を拾って食べる姿も観察できます。

オスとメスはよく似ていますが、**オスのほうがやや色**ははっきりしています。

シメは、春から夏にかけて山地の森林で子育てをし、秋から冬にかけて食べ物を求めて、平地や里山に降りてきます。

学名：Eophona personata
 分類：スズメ目アトリ科
 体長：約18～19cm
 分布：東アジア、日本全土



ちょっと精悍な顔つき



シメのくちばし



エノキ



オニグルミ

潤いの森に多いエノキの実や、硬い殻をもつオニグルミの実も割って食べます。ほかの小鳥にはまねできない、力自慢の野鳥です。

サワフタギ

サワフタギは、里山や雑木林の沢沿いなど、少し湿った場所に生える落葉低木です。初夏に細かい白い花を咲かせ、秋になると美しい青い実をつけます。里山の木の実には赤や黒が多い中で、熟しても赤くならず、金属光沢のある青色の実をつけるサワフタギは、とてもめずらしい存在です。この青い実は人には渋く、虫にもあまり好まれません。ヒヨドリやムクドリなどの鳥にはよく見え、秋から冬の大切な食べ物になります。鳥が実を食べることで種が運ばれ、サワフタギは次の世代へと命をつないでいます。まさに鳥と共に生きる木といえるでしょう。サワフタギの名前は、「沢（さわ）」の近くに生えることから付いたと考えられています。また、サワフタギの仲間は世界にも分布していますが、この**光沢のある青い実をつける日本のサワフタギは、日本固有の特徴をもつ木**です。



学名：Symlocos chinensis var. leucocarpa
 分類：ハイノキ科ハイノキ属
 落葉低木2～6m
 分布：本州、四国、九州



鳥には「よく見える青」

多くの昆虫は赤はほとんど見えず、青や紫外線を感じても、サワフタギの様に早木陰の中では青い実は背景と同化してしまい見つかりにくいと考えられています。しかし、鳥は人間よりも色覚が発達しており、青、紫、赤をはっきり区別できます。

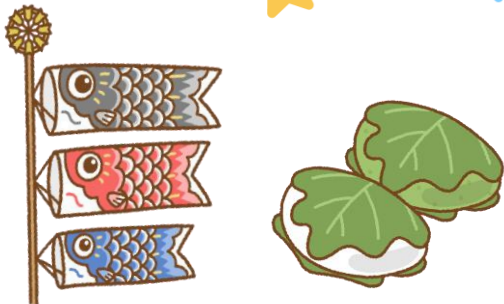


紫外線が見れるとこんなに違う

出典：http://karapaia.com/archives/52157469.html

モンキアゲハ

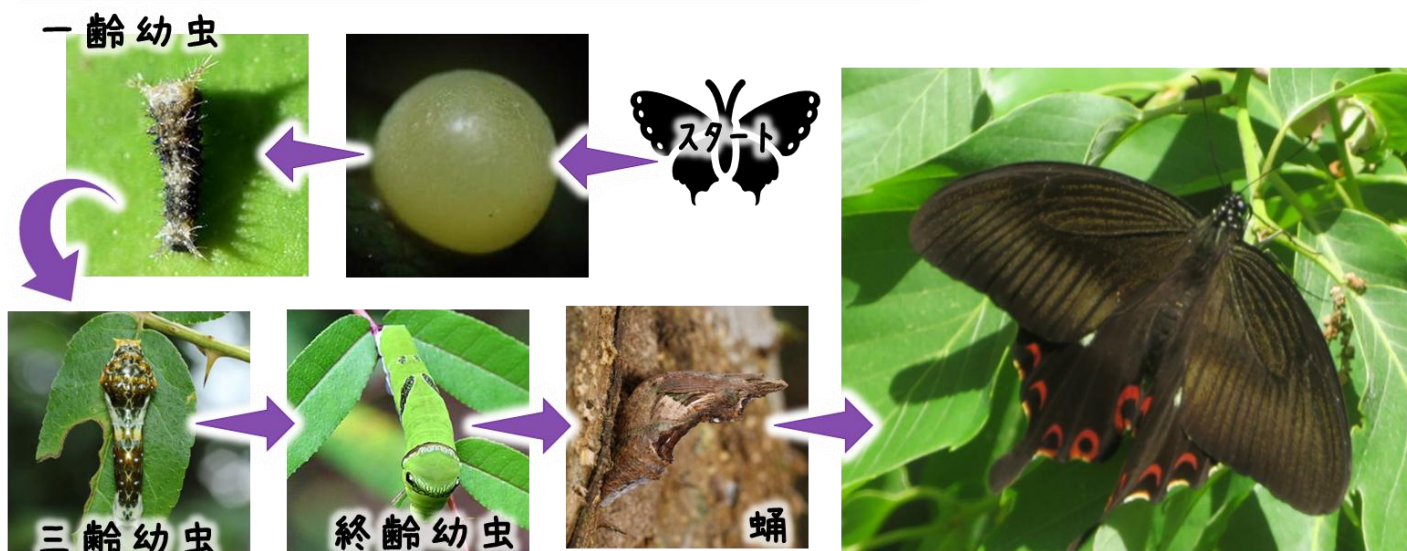
モンキアゲハは、日本最大級のチョウです。黒いはねの後ろにある大きな黄色いもようが名前の由来です。里山の林のふちや明るい場所を、ゆったりと力強く飛ぶ姿が目を引きます。春から秋にかけて見られ、花の蜜を吸いながら活動します。



学名：Papilio helenus
 分類：チョウ目アゲハチョウ科
 分布：本州・四国・九州・沖縄
 体長：（前翅長）50-75mm

卵から羽化まで約3週間～1か月

名前は背中
の紋から



ガマズミ — 里山の実のなる木 —

潤いの森のガマズミは、毎年食害に合い、なかなか花を見ることができませんでしたが、今年は葉も無事で、蕾も上がってきました。春には白い小さな花を咲かせ、秋にはつやのある赤い実をたくさんつける里山や雑木林でよくみられる落葉樹です。秋につく赤い実は、人には渋く生で葉食べられませんが、鳥たちにとっては貴重な食料となっています。

分類：ガマズミ科ガマズミ属
 落葉低木
 花期：5-6月



ガマズミの葉を食草とする虫

潤いの森では、クワゴマダラヒトリ、サンゴジュハムシ、ベニカミキリ等が食草としていますが、特に毎年サンゴジュハムシの食害が一番です。



花と実の写真引用元：「野山の花たち」